



2026年1月30日

日本鉄道労働組合連合会

第38回中央委員会

2026春季生活闘争方針を含む当面の活動方針を決定

ONE TEAMで 今年も 賃上げ

1月28日、JR連合は大阪市内において、第38回中央委員会を開催し、2026春季生活闘争方針を含む当面する活動方針を決定した。



JR連合 上村会長

上村良成会長は、責任産別としてJR産業の未来を創る決意のもと、「安全確立」「2026春季生活闘争と労働政策」「男女平等参画と組織の強化」「産業政策」の課題を提起するとともに、第51回衆議院議員選挙の必勝に向けた取り組みを要請した。



特に、2026春季生活闘争について、「物価上昇を上回る継続的な賃上げは労使の社会的責務」と訴え、連合方針に基づき、定昇相当分を含む賃上げ要求1万8000円以上、うち統一ベア要求1万2000円以上とする方針を本委員会で決定し、魅力あるJR産業をつくるため、グループ労組を含め賃金や待遇を改善し、全97単組がONE TEAMで積極果敢に取り組むことを要請した。

また、大会以降に新規加盟した鉄道運輸機構労働組合、名古屋ステーション開発労働組合の代表者にそれぞれ加盟証書を手交した。

執行部からの運動方針に対する質疑では、12名の中央委員から、春季生活闘争勝利、安全確立に向けた課題、グループ労組の厳しい現状、男女平等参画の推進、政策活動の重要性と、それを実現するための政治活動の必要性、JR連合への総結集に向けた組織の充実・拡大に向けた取り組み等について発言があった。



JR連合 今井事務局長

執行部による答弁の後、総括答弁に立った今井孝治事務局長は、続発する不安全事象に労働組合のチェック機能強化を呼びかけるとともに、2026春季生活闘争について、グループ労組を含めた賃金・待遇改善の重要性を訴えた。また、「JR連合運動に参画することで社会と繋がり、結果として産業の成長を実現できるのだ」と自信を持ってさらなる組織強化・拡大に取り組む必要性を強調した。各議案は、満場一致の承認を受けた。

今次春季生活闘争も厳しい闘いとなることが予想されるが、持続可能な魅力あるJR産業を構築するため、JR連合は一致団結して勝利に向け邁進していく。

※ 本委員会で決定した2026春闘方針は、JR連合ホームページ又は「JR連合ニュース～2026春闘～No.1」を参照